

(令四国グ後)

# 小論文

- ・問題は1～9ページである。
- ・下書き用紙は中に2枚入っている。

注意 解答は答案用紙に縦書きで記入しなさい。

小論文 二〇〇点

次の文章を読んで、あとの問一〜三に答えなさい。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。



# 著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

出典 リサ・フェルドマン・バレット(高橋 洋訳)『情動はこうしてつくられる——脳の隠れた働きと構成主義的情動理論』  
(紀伊國屋書店、二〇一九年)。ただし、本文の一部に改変および省略がある。

注

- 1 インスタンス——ある普遍的な事象に属する一回一回の出現例。ここでは個々の具体的な経験に対応する心的構築物を示す。
- 2 ニューロン——脳を含む神経系を構成する細胞。
- 3 ウィリアム・ジェイムズ——アメリカの哲学者、心理学者(一八四二〜一九一〇年)。

- 4 スタンレー・シャクター——アメリカの心理学者（一九二二～一九九七年）。
- 5 ジェローム・シンガー——アメリカの心理学者（一九三四～二〇一〇年）。
- 6 シナプス——ニューロンの間にある隙間。化学物質を介して他の細胞に情報を伝える。
- 7 縮重——同一の経験が、いくつかの異なる神経活動のパターンによって実現可能であるという、脳の働きの特殊なあり方。

問一 傍線部(a)において、「構成主義的情動理論」はどのような考えを取り入れていると筆者は考えているのか。本文の内容に即して二〇〇字以内で説明しなさい。（配点三〇点）

問二 傍線部(b)において、「怖れの感情から怖れのインスタンスを割り出すことはできない」のはなぜか。「中核システム」、「インスタンス」の二つの語を用いて、筆者の考えを四〇〇字以内で説明しなさい。（配点五〇点）

問三 私たちの情動は異なる文化や社会的状況で、どのように他者から理解されるのか。「悲しみ」を例に、「古典的理論」と「構成主義的情動理論」を比較しながら、自分の考えを一〇〇〇字以内で論じなさい。（配点一二〇点）